春を告げる古典芸能

4月19日、関まつりの中心行事である春日神社の祭礼が同所で行われ、多くの見物客でにぎわいました。祭礼では獅子舞や巫女(みこ)舞、仮面舞(えびす、伊賀(ひょっとこ)、おかめ、天狗(てんぐ))、浦安の舞が奉納されたほか、浦嶋山車、加茂山車によるからくり披露、古典神事芸能「どうじやこう」が奉納されました。集まった見物客は、境内で繰り広げられる伝統の古典絵巻に、歓声と拍手を送っていました。

あんな事、こんな事

みこしをくぐって無病息災

富之保岩山崎地区の水無神社で4月19日、春の例大祭が開催され、神様が大小2基のみこしに乗って、粟野地区の仮宮まで約1キロの旅に出る「神幸(しんこう)渡し」が行われました。行列を先導するのは、こん棒を持った「棒振り」と呼ばれる2人の鬼。ゆっくり歩いて行く行列は幽玄で、この行列の神輿の下をくぐると、1年間無病息災でいられるといわれています。

伝統のみこしを担いで

倉知地区で4月19日、「倉知まつり」が開催され、白山神社を祭る上組と鞍智神社を祭る下組からそれぞれみこしが担ぎ出され、祭礼場になっている関自動車学校で出会いました。2基のみこしは競り合ったあと、同校敷地内の神事が行われる場所まで全力で駆けて行きました。このお祭りは郷土の伝統として地元住民によって永年に渡って受け継がれています。

右見て左見て

洞戸小学校で、交通安全への意識の高揚と正しい自転車の乗り方を身につけることを目的に「交通安全教室」が開催されました。教室は低学年と高学年に分かれて、時間をずらして行われ、児童らは洞戸交番の早野大介警部補から交通安全に関する話を聞いたあと、実際に自転車に乗って、安全確認の仕方、横断歩道の渡り方を教わりました。

プール掃除のやさしい味方

旭ヶ丘小学校5年生64人が、環境ネットせきの福田まち子副代表を講師に招き、プール掃除に使うＥＭ発酵液の作り方を教わりました。同校がプール掃除にＥＭ発酵液を導入するのは今年度が初めて。児童らは米のとぎ汁が入ったペットボトルにＥＭ菌と糖みつを入れてよく振って、256リットル分を作り、1週間から10日間かけて発酵させました。

伝統の漁法を再現

4月24日、小瀬鵜飼が行われる小瀬の長良川河畔で、帆かけ鵜船の試し上りが行われました。昭和26～27年ごろまで行われたこの漁法は、南風が吹く5～6月に、鵜船に大きな帆をかけて、さらに上流まで漁に出かけていくもの。今回、鵜匠代表で小瀬鵜飼保存会会長の岩佐昌秋鵜匠と足立陽一郎鵜匠や船頭らが企画して実現しました。

夢はテニスの四大大会出場

3月31日～4月4日に東京都で開催された「第2回TOMAS CUP全国ジュニアテニスツアーチャンピオンズ大会」10歳以下男子シングルスで優勝した桜ヶ丘小4年の堀江亨さんが両親と一緒に市役所を訪れ、市長に優勝の喜びを報告しました。また、3月26日に福岡市で開催された「第31回全国選抜高校テニス大会」女子団体戦では椙山女学園高校(愛知)の粥川捺美さん(緑ヶ丘中出身)が3位に入賞しました。

こぼれ話

金龍親友会の連覇で終わった今年のあんどんみこしコンクール。すべてのみこしが通り過ぎたあと、最後に春日町1丁目による「えびすの舞」が披露されているのをご存知ですか。横笛や太鼓の音に合わせて、えびす様の面を着けた舞役が独特の舞を踊ります。いつも最後に現れるので、何かいわれがあるのではと思い、横笛の人に尋ねてみると「特にいわれはないけれど、翌日の春日神社の祭礼の宣伝と、あんどんみこしコンクールの協賛のために来ている。20年ほど前から参加しているが、夕方、当本(とうもと)の家で神楽を納めてから来るため遅くなり、ここ数年は最後になっている」とのことでした。期せずして最後に現れているということでしたが、この舞を見ると今年も無事コンクールが終わったなという気持ちになります。ちなみに、えびすの舞を含め仮面舞は4つあるそうですが、神様が舞役を通じてみんなに福を与えて縁起がよいため、この舞を選んで披露しているそうです。